

支援会員のお誘い

大久保泰邦（もったいない学会副会長）

もったいない学会では新たに入会金と年会費無料の「支援会員」を設けました。

お名前とメールアドレスを入力するだけで登録ができます。是非この機会に以下の URL より支援会員に登録をお願いします。

<http://mottainaisociety.org/join-support-member/>

支援会員はもったいない学会ホームページ (<http://mottainaisociety.org/>) にログインすることにより様々な情報をご案内させていただきます。一例は web 学会誌の論文「福島原発被災後の生涯に渡る放射能汚染と健康影響」（著者：安藤満）です。

またメールを通して、学会から発信するさまざまな情報、例えばサロン、シンポジウム、学術大会の案内、優れた資源、エネルギー、環境に関する SNS で公開されている動画などの情報、インターネットでアクセスできる報文、書籍の紹介記事などを得ることができます。

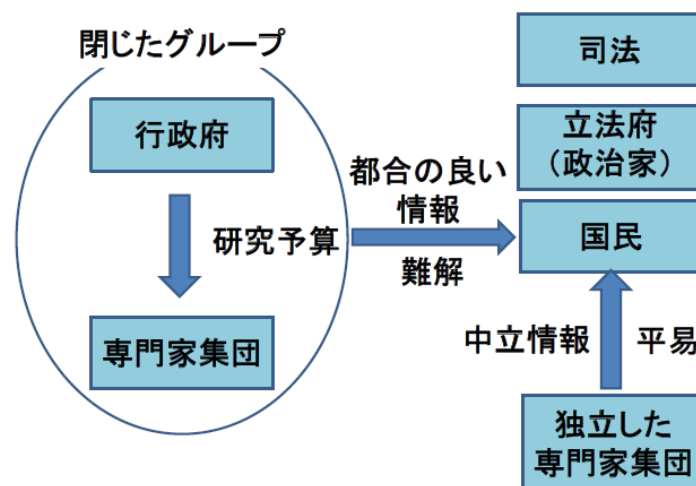
例えば以下です。

- ✓ SNS で公開されている動画などの情報
例 1：下記のラジオお聞きを、「堂々巡り、答えのない核燃料そして技術」ということ、20160129 報道するラジオ「高浜原発再稼働～福島は？核のゴミは？」（石井吉徳氏の投稿）
<https://www.youtube.com/watch?v=TYa12ueRDTk>
例 2：post carbon institute より（山本達也氏の紹介）
<http://www.postcarbon.org/videos/>
例 3：There's No Tomorrow (peak oil, energy, growth & the future)（山本達也氏の紹介）
<https://youtu.be/VOMWzjrRiBg>
- ✓ インターネットでアクセスできる優れた報文。
例：日本学術会議が 2012 年 9 月 11 日の「回答 高レベル放射性廃棄物の処分について」
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-k159-1.pdf>
- ✓ 優れた書籍の紹介。
例：「市民の科学」（高木任三郎著）

2011 年 3 月の原発事故から 5 年経ちましたが、今は原発再稼働へと向かっています。あの時の教訓は一体どこに行ったのでしょうか。

下の図は、「市民の科学」（高木任三郎著）の論点の一つをまとめたものです。

「市民の科学」(高木任三郎著)の論点



原発を含めたエネルギー政策の最終責任者は、民主国家においては国民であります。ところがエネルギー政策を含めた科学政策は行政府が予算を立て、それに関わる専門家集団がその予算で研究を行うため、閉ざされたグループの活動となり、そのグループからの情報が国民には伝わりにくい構造になり、国民は判断できるだけの十分な知識を持ってない状況になっています。

日本以外の多くの国では、閉ざされたグループの外に立つ専門家集団があり、科学政策を評価して国民に伝えており、このメカニズムが民主国家を保障しています。日本においてはこのメカニズムがほとんどないために、国民は判断ができないのであります。

もったいない学会は資源、エネルギー、環境、社会の分野の専門家集団として、閉ざされたグループの外の独立的立場に立ち、当分野におけるさまざまな課題に関し研究・評価し、研究成果を国民に理解できる内容にして公開しています。